仙台～宇和島～地吉と、文化は今もつながっている

四万十町 町内ぶら～り散策

地吉（じよし）

地区に脈々と伝承される「東北・仙台」

古城地区から長沢川に沿って西へ。旧古城小学校を過ぎるとすぐに地吉地区に入る。旧十和村北部は東から順に大道～白井川～戸川～古城と本立ての本のように並び、最後の西の端に地吉が“立つ”。前述の地区はいずれも最北部のみが伊予と接しているのだが、地吉は北部のみならず、西部も西土佐村を挟んで伊予と近接しているため、人もモノも文化も伊予との繋がりが深い。その象徴が、地区の産土神・八幡宮で行われる「五ツ鹿踊り」である。「五ツ鹿踊り」は江戸初期に宇和島藩から伝わったもので、そのルーツは仙台にある。二代将軍徳川秀忠の時に宇和島藩を与えられた伊達秀宗が仙台から「鹿踊り」を持ち込み、これが地吉にも伝わった。不思議なのは、隣の地区である古城をはじめ、前述の4地区も伊予との交流が盛んだったにも関わらず行われていないこと。伊予との境界線の長さなどの地理的条件がその理由かもしれない。

五ツ鹿踊りは「邦楽と伝統芸能の祭典（1994年）」で披露された

やっぱり河童はきゅうり

さて、地区は下組・中組・奥組・大畑組で構成されている。産土神の八幡宮は奥組にあり、ここの境内に樹齢800年ともいわれる夫婦杉がそびえる。その昔は吉祥庵という寺もあったが、現在は集会所に移されている。戦前、寺には尼僧がいて、地吉村でのさまざまな出来事を書きためていたという。これが残念なことに紛失してしまったらしい。残っていれば貴重な歴史資料になったであろう。また、集会所の裏に、河童を封じ込めたという壺を祀った「えんこう堂」なるものがある。これまた800年前からのものと伝えられていて、今も毎年8月5日の施餓鬼供養の時に、きゅうりの薄切りを水粥に混ぜ、それを茶碗に入れてお供えするのだそうだ。やはり、河童といえばきゅうりなのだろうか。この壺は決して開けてはならないと伝えられていて、地区の方曰く「誰も開けたことがない」らしい。

「新しいことに前向きな気質があるのかも・・」

古城と同じで、終戦までは細々と養蚕、炭焼きが行われていたが、古城椎茸研究会（前号参照）が立ち上がると、研究会が惜しみなくその技術を広めてくれたこともあって、地吉の人々も椎茸栽培と乾燥椎茸の生産に取り組んだ。さらに加工品も生み出した。「新しいことに前向きで、一致団結しやすい地域性があるのかもしれん」と地区の方は言う。そんな気質は、十和村が椎茸生産高日本一を達成する大きな原動力となったことは言うまでもない。

町のうごき

（12月31日）	人　口	前月比
男	7,206	-11
女	7,739	-22
計	14,945	-33
世帯数	7,942	-18

	出生	死亡	転入	転出
男	1	13	12	11
女	0	18	4	8
計	1	31	16	19

（12月中の届出）

窪川地域 10,656人　大正地域 2,045人　十和地域 2,244人

四万十町通信　2025.2月号　Vol.227（毎月10日発行）
●発行／四万十町企画課　●印刷／弘文印刷
〒786-8501　高知県高岡郡四万十町琴平町16-17　(0880) 22-3124　FAX (0880) 22-3123

UD FONT by MORISAWA　本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。